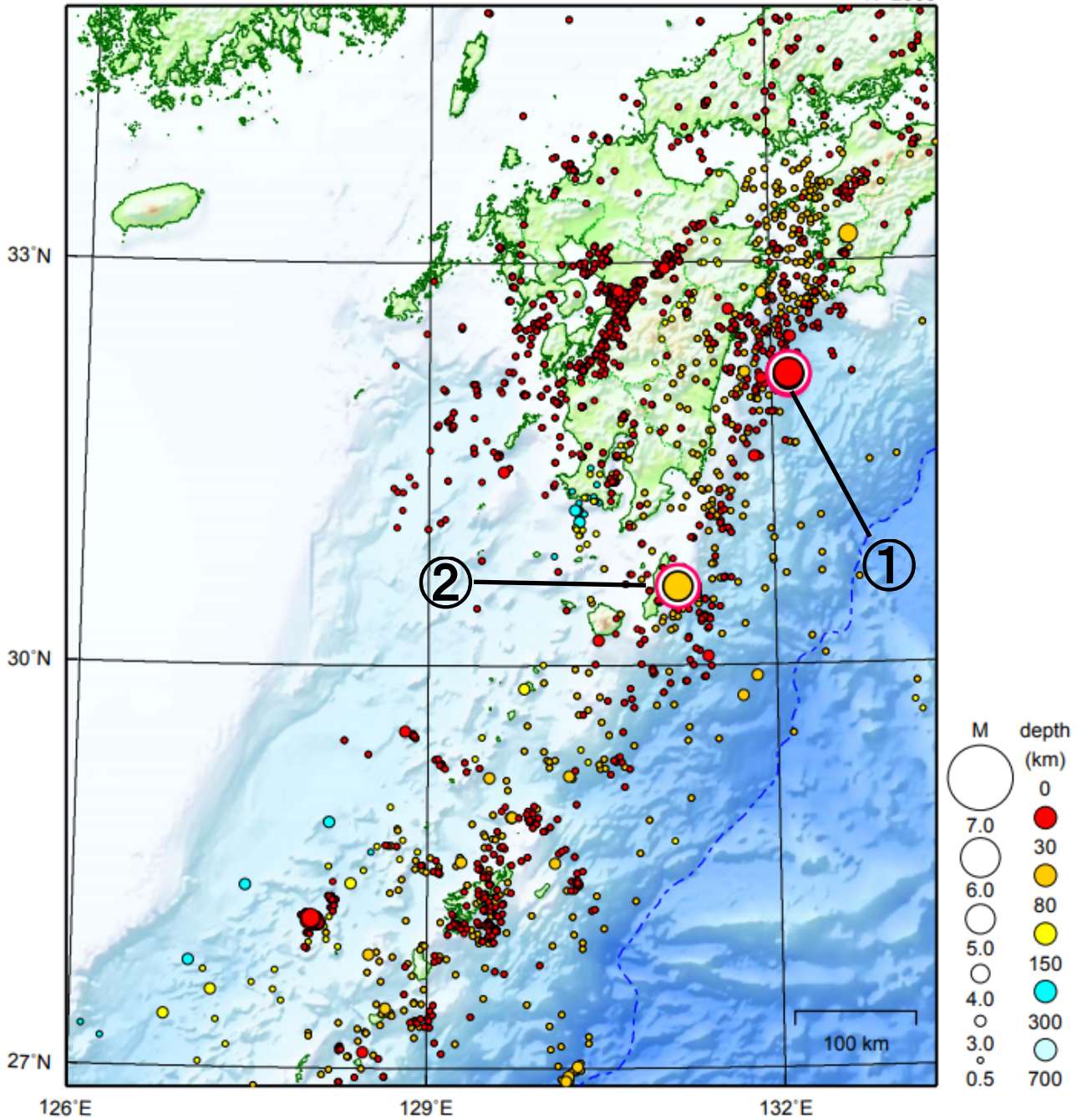


九州地方

2019/03/01 00:00 ~ 2019/03/31 24:00

N=2900



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

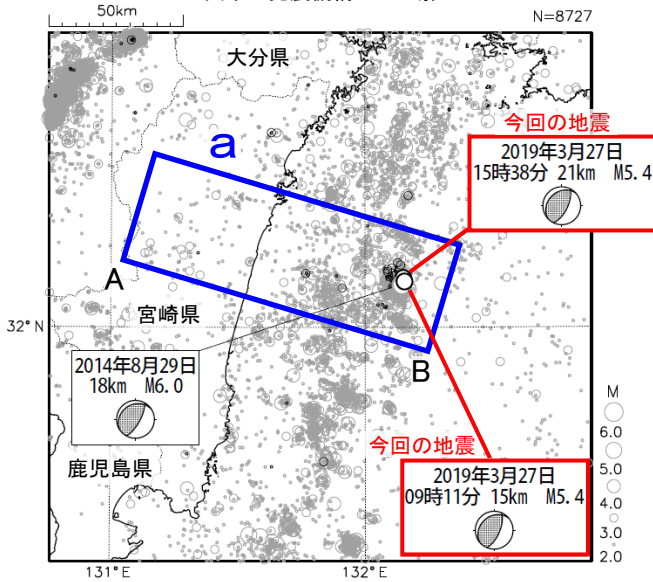
- ① 3月27日09時11分に日向灘でM5.4の地震（最大震度3）が発生した。
また、同日15時38分に日向灘でM5.4の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 3月30日に種子島近海でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

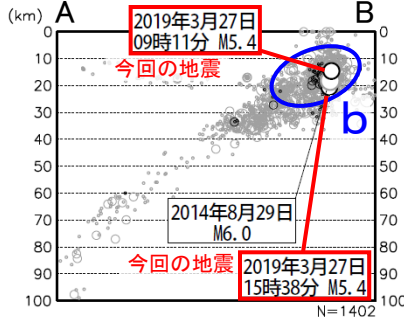
気象庁・文部科学省

3月27日 日向灘の地震

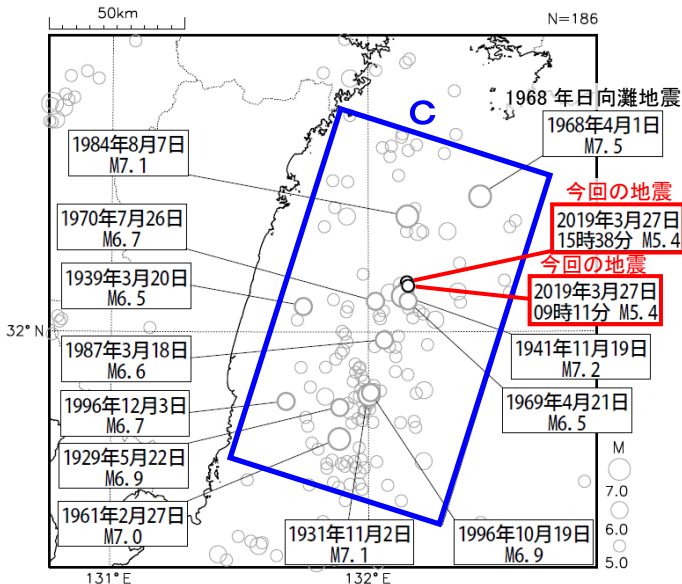
震央分布図
(1997年10月1日～2019年3月31日
深さ0～100km、M \geq 2.0)
2019年3月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解



領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図
(1922年1月1日～2019年3月31日、
深さ0～100km、M \geq 5.0)
今回とM \geq 6.5以上の地震に吹き出しを付けた

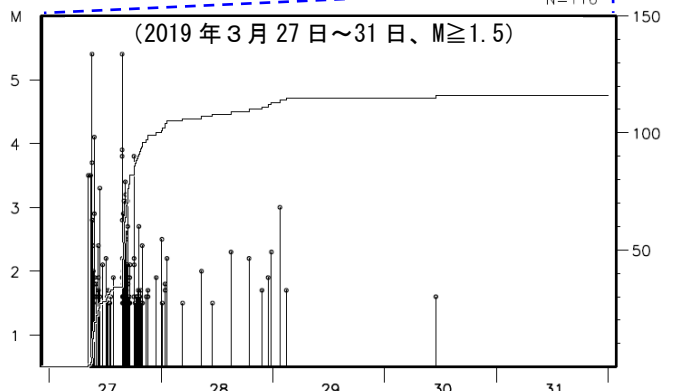
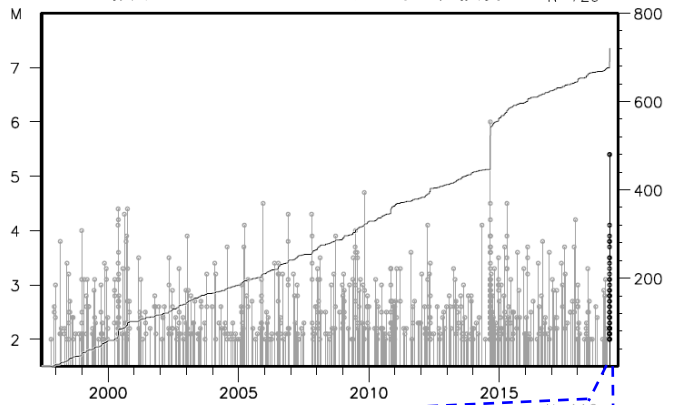


2019年3月27日09時11分に日向灘の深さ15kmでM5.4の地震（最大震度3）が発生した。また、同日15時38分にはほぼ同じ場所でM5.4の地震（最大震度4）が発生した。これらの地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

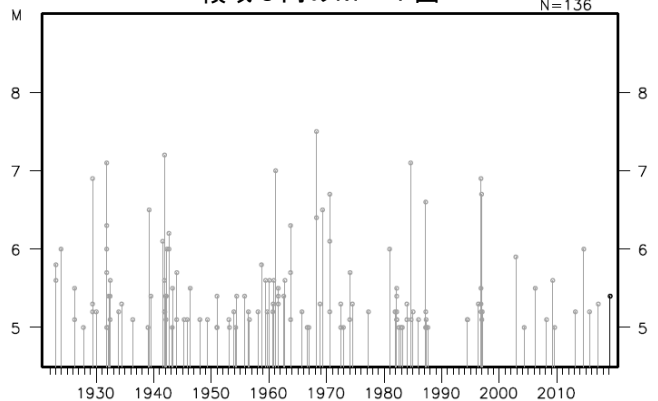
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）はM4.0以上の地震がしばしば発生するなど地震活動が活発な領域である。最近では、2014年8月29日にM6.0の地震（最大震度4）が発生した。

1922年以降の地震活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）ではM6.0以上の地震が時々発生している。近年では、1996年10月19日にM6.9の地震（最大震度5弱）、同年12月3日にM6.7の地震（最大震度5弱）が発生し、ともに最大で十数cmの津波を観測した。

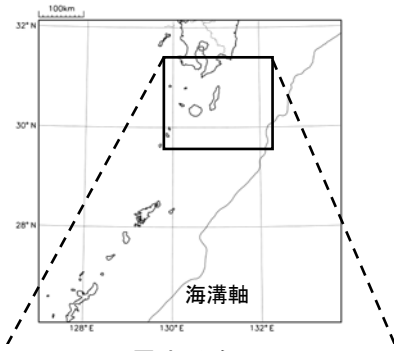
領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図



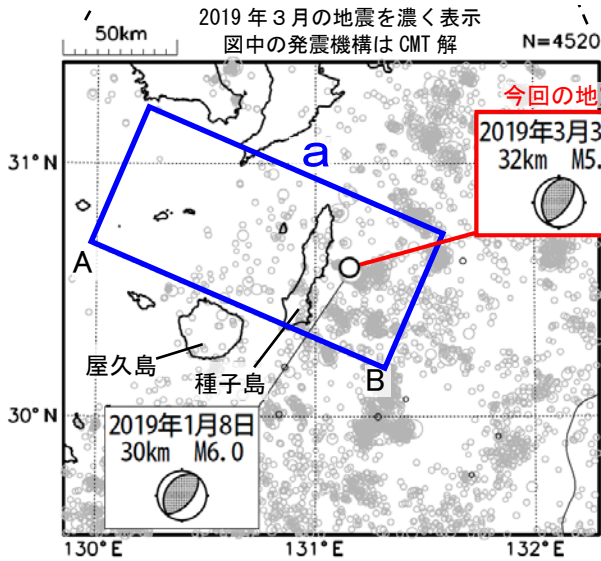
3月30日 種子島近海の地震



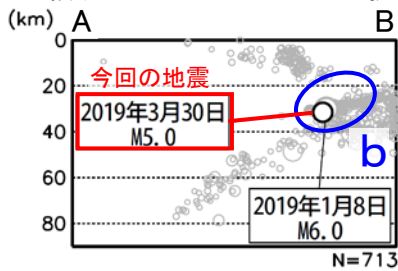
震央分布図

(1997年10月1日～2019年3月31日
深さ0～90km, M \geq 2.5)

2019年3月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解

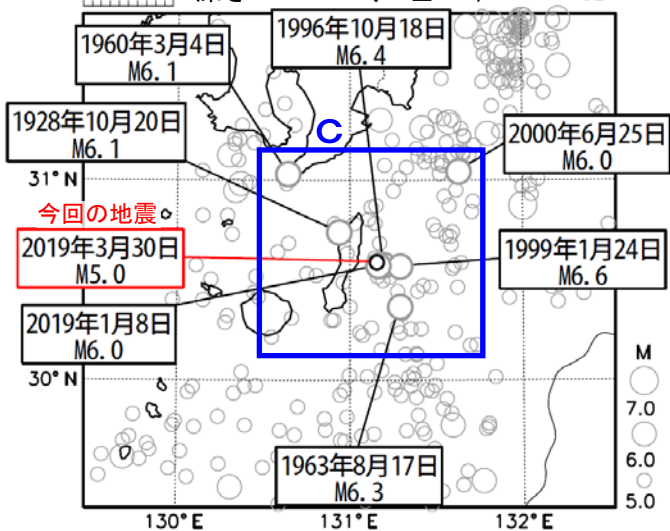


領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



震央分布図

(1922年1月1日～2019年3月31日、
深さ0～200km, M \geq 5.0)

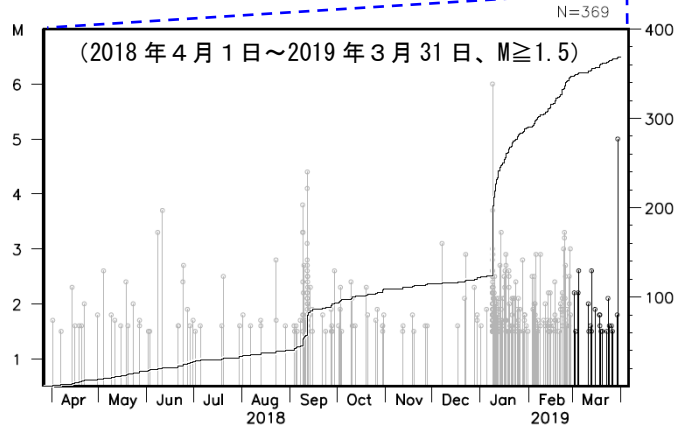
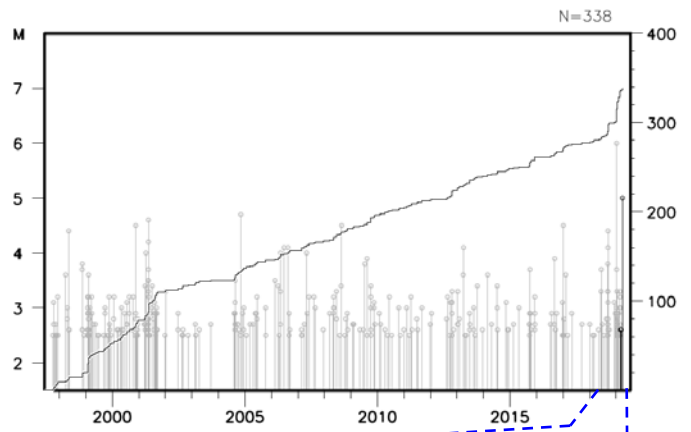


2019年3月30日05時55分に種子島近海の深さ32kmでM5.0の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)ではM4.0以上の地震が時々発生している。2019年1月8日にM6.0の地震(最大震度4)が発生して以降、地震活動がやや活発となっていた。

1922年以降の地震活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)ではM6.0以上の地震が7回発生している。このうち、1996年10月18日にはM6.4の地震(最大震度4)が発生し、種子島で17cmの津波を観測した。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 c 内の M-T 図

